

ジャカルタにおけるトバ・バタック人の婚姻関係とアイデンティティ

平成20年入学

参加したフィールドスクール：ネパール・フィールドスクール

調査地（調査国）：ジャカルタ、インドネシア

平田生子

キーワード：都市移住、アイデンティティ、マイノリティ、婚姻関係、文化継承

自分の研究テーマについて

本研究の目的は、ジャカルタにおけるトバ・バタック人の親族関係と民族アイデンティティとの関係性を実証的データにもとづいて明らかにし、彼らの民族意識の根底にあるものとは何であるかを解明することである。

バタック人は、人口約600万人（インドネシア総人口の2.5%）の北スマトラの高地を故地にもつプロトマレー系の民族集団であり、そのなかのトバ・バタックが最大のサブ・グループである。世界最大のイスラム国家であるインドネシアにおいて、トバ・バタック人口の9割をキリスト教徒が占める。

バタック人の都市移住には大きく分けて2波ある。第1波は独立後の1950年代におけるエリート層の教育を目的とした移住、第2波は、1960年代末の政治的混乱により、経済的に困窮した多くの若者の就労目的による移住である。ジャカルタを調査地とすることの意義は、多民族都市で民族的、宗教的マイノリティとして生きるなかで、なお次世代に継承されるものこそが、民族意識を保持させる重要な役割を担うものだと考えられることである。

現時点で明らかになっている点は、強固な父系理念を有するバタック人は、都市部においてもなお伝統的慣習を保持していることである。しかし、バタックの慣習は時代や場所により、常に変化するものでもある。(Bruner 1972) 婚姻についても例外ではなく、世代を追うごとに衰退するバタック語の影響もあり、婚姻に関する慣習の手順は、追加あるいは省略され、常に変化している。

<参考文献>

Bruner M. Edward, *Batak Ethnic Associations in Three Indonesian Cities*, *Southwestern Journal of Anthropology* 28(3): 207~229.

フィールドスクールから得られた知見について

今回ネパールでは、丘陵部と平野部で気候や風土の大きく異なるネパールでの農村開発、環境保全を自らの目を通して学ぶことで、農村部の現状を知ることができた。

今回訪問し、宿泊させていただいたピンタリにあるタマン族の住むマンガルター村では、NGO団体（サグーン）やUNDP（国連開発計画）により、奨学金援助が行われたりや電気、水道が引かれていた。また、母親グループが率先して村全体で貯金をしたり、博打に関する規則を制定したりするなど、女性の活躍が目立った。

チトワンにあるボテ族の暮らす村では、1973年の国立公園指定の影響で、3500人もの人々が以前の居住地からの強制移住、薬草や果物の収穫の制限を一方的に強いられていた。CDO（community development organization）の援助により、組織を結成し、政府に対して現状改善を訴えている。戸

籍代わりの証明書の発行や、三毛作の導入など、状況はすこしずつ改善しているが、問題ははまだ山積みようだ。問題解決のためには、CDOに頼りきりにならない村民の自主的行動と、そのための教育が必要だと学んだ。

今回のフィールドスクールでは、短期間にさまざまな場所を巡り、話を聞くことができたので、初めてネパールを訪れた報告者にとっては、大変勉強になったが、その反面、1人1人との関係が十分に構築できなかったことは残念である。



お世話になったホストファミリーと



国立公園内の川を象に乗って渡る

フィールドスクールで学んだことがどのように研究テーマにいかせるか？

今回、インドネシア同様多民族・多宗教国家であり、さらにカースト制度を有し、より複雑な社会を構築するネパールを知ることにより、アイデンティティとはなにかという根本的な問いについて、今一度考え直すことができた。

これまで人々は慣習や文化を保持し、そのなかで自己のアイデンティティを主張するのだと考えてきた。異なる集団のなかにいるのなら、それはなおさら顕著になる。しかし、カースト制度が社会の基礎をなすネパールでは、皆が自身の身分に満足しているわけではない。自己の慣習を保つほか選択肢のない彼らにとって、伝統や慣習とはどのようなものなのか、そのなかで構築される彼らのアイデンティティとは何なのかという点に興味をもった。

また、地理、慣習の違いや識字率の問題から、都市部よりもインドなど外国を就労移住地として選ぶ人々を知り、移住を研究する上で、移住の背景とその原因を把握することの重要性を改めて感じた。



井戸を掘る人々



寺院の中のマニ車